

## マアジ太平洋系群の漁況予報

今後の見通し(2007(平成19)年8月～12月)

対象海域:北薩～熊野灘、相模湾

対象漁業:まき網、定置網

対象魚群:0歳魚(2007(平成19)年級群)、1歳魚(2006(平成18)年級群)、2歳(2005(平成17)年級群)以上。年初に加齢。魚体は尾叉長。

### 1.北薩～土佐湾(まき網、定置網)

(1)来遊量:北薩～薩南では低水準の前年を上回る。日向灘～豊後水道西部では低準の前年並みか前年を下回る。豊後水道東部～土佐湾では低水準の前年を下回る。

(2)魚体:19cm以下(0歳魚)が主体。豊後水道では20～24cm(1歳魚)も混じる。

### 2.紀伊水道外域～熊野灘南部(まき網、定置網)

(1)来遊量:紀伊水道外域西部では主体の0歳魚は前年を上回るが、1歳以上は前年を下回る。紀伊水道外域東部では高水準の前年を下回る。熊野灘南部では前年を下回る。

(2)魚体:紀伊水道外域西部では10～19cm(0歳魚)と20～24cm(1歳魚)。紀伊水道外域東部では19cm以上(1歳以上)が主体。熊野灘南部では12～18cm(0歳魚)が主体で、11月以降は21cm以上(1歳以上)も混じる。

### 3.熊野灘中北部(まき網、定置網)

(1)来遊量:低水準の前年を上回る。

(2)魚体:8～10月は20～24cm(1歳魚)主体、11～12月は14～18cm(0歳魚)主体。

### 4.相模湾(定置網)

(1)来遊量:前年を上回る。

(2)魚体:10～19cm(0歳魚)主体で、8月は20～23cm(1歳魚)も来遊する。

漁況の経過(2007(平成19)年1月～7月)および今後の見通しについての説明

### 1.資源状態:

資源量は1986(昭和61)年以降顕著に増大し、1990年代半ばは15万トンから16万トンと高水準であった。しかし1997(平成9)年から減少し、2001(平成13)年に増加したものの、2002(平成14)年には再び減少し、2004(平成16)年にかけてわずかに増加が見られたが、2005(平成17)年以降は減少が続いている。2006(平成18)年の資源量は9万8千トンと中位水準であり、近年の資源動向は減少傾向である。

## 2. 来遊量、漁期・漁場:

2005(平成17)年級群(2歳魚)は、例年の経過から紀伊水道外域東部に来遊が予測される。

2006(平成18)年級群(1歳魚)は、例年の経過から、今漁期を通して紀伊水道外域で、10月までは熊野灘中北部で漁獲の主体となると考えられる。この年級群の0歳魚としての漁況は、6月に豊後水道東部で、11月に熊野灘でややまとまって漁獲されたほかは低調に推移した。1歳魚となった今年1～6月は、紀伊水道外域西部では低調、紀伊水道外域東部では好調で、熊野灘中北部では低調であった前年を上回った。これらのことから今漁期の来遊量は、紀伊水道外域西部は前年を下回り、熊野灘中北部では低水準の前年並みと予測される。紀伊水道外域東部では前年が高水準であったのでそれには及ばないと予測される。

2007(平成19)年級群(0歳魚)は、北薩～紀伊水道外域西部、熊野灘南部、相模湾では今漁期を通して、熊野灘中北部では11月以降の漁獲の主体となると考えられる。九州南東沖における表層網による稚魚の採集数は低水準の前年を下回り、日向灘南部の大型定置網への0歳魚の入網は低水準の前年並みであった。6月までの漁況は、北薩～薩南海域では棒受網やまき網への混獲が低調の前年を上回り、日向灘～豊後水道、高知県海域では低調、紀伊水道外域西部の定置網は好調、潮岬附近～熊野灘南部の棒受網、定置網は低調であった。熊野灘中北部の定置網は前年を上回った模様で、相模湾の定置網は低調の前年を上回って1990年以降の平均並みであった。日向灘、相模湾では6月までの0歳魚の漁況と7～12月の漁況に正の相関が認められ、他の海域でも同様の関係があると考えられる。これらのことから今漁期の来遊量は、北薩～薩南では低水準の前年を上回り、日向灘～豊後水道西部では低水準の前年並みか前年を下回り、豊後水道東部～土佐湾では低水準の前年を下回る。また、紀伊水道外域西部では前年を上回り、熊野灘南部では前年を下回り、熊野灘中北部、相模湾では前年を上回ると予測される。

予測対象海域では周年漁場が形成される。

2006(平成18)年7～12月の主要港水揚量は鹿児島～高知は6,110トン、徳島と和歌山は1,978トン、三重と愛知は1,062トン、相模湾は204トンであった。2007(平成19)年1～6月は鹿児島～高知は4,778トンで前年同期の0.8倍、徳島と和歌山は1,592トンで0.9倍、三重と愛知は660トンで1.6倍、相模湾は1,410トンで0.9倍であった。